

## 結核緊急事態宣言と日本の現状

1999年7月、厚生省(現・厚生労働省)は結核緊急事態宣言を発しました。厚生省はこれまで、結核は克服されたとの認識で、国立病院や国立療養所の結核病棟の削減を進め、予防活動の拠点である保健所の統廃合もすすめてきました。しかし、1997年になって結核患者の届け出数が一転して増加したことから、結核緊急事態宣言が出されるに至ったわけです。

1997年の国内の結核新規登録患者数は42,715人で、前年比243人増。98年は44,016人で、さらに1,301人増加と、確実に増えてきました。増加の理由としては、以下の4点があげられます。

- ① 国民、医療機関とも結核は過去の病気と考えてきた。具合が悪いと真っ先にがんを心配してしまう時代になっており、結核の発見が遅れていた。
- ② 結核患者が発見されても適切に対応されていない。結核に対する基本的知識が、医療機関側にも不足していた。
- ③ 健康診断の機会が十分でない集団がある。これは保健所の弱体化など、保健予防政策によるところが大きい。
- ④ 集団発生の原因として結核に未感染の抵抗力の弱い人が増えている。

99年には43,818人と減少に転じ、その後も減少傾向は続いているものの、日本の結核罹患率を見ると、次のようないくつかの顕著な傾向が見られる。

- ① 20歳代の結核罹患率は前後の年齢層より高く、減少率も低い。(参考資料-4)  
20～29歳の罹患率13.5%で30歳台は12.8%、10台は3.3%。
- ② 働き盛りの感染性の強い結核患者では、発見の遅れが依然大きい。  
(参考資料-5)  
30～59歳の有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核は29.5%と全年齢の有症状肺結核20.7%より高い。
- ③ 新登録結核患者における高齢者の割合が、増加傾向にある。(参考資料-3)  
70歳以上の新登録患者のしめる割合は47.0%。
- ④ 世界的に見ると、日本は先進国中で図抜けた罹患率である。(参考資料-1)  
日本の罹患率はカナダの4.5倍、米国の4.4倍、オーストラリアの4.0倍である。

このような状況から判断し、日本は世界的に見て依然として結核“中”蔓延国と言われています。

(参考資料) **2006年結核発生動向調査集計結果**  
(厚生労働省調べ)

1・諸外国と日本の結核罹患率

国名	罹患率	年次
日本	20.6	2006
英国	13.7	2005
フランス	8.1	2005
デンマーク	7.3	2005
オランダ	6.9	2005
ドイツ	6.7	2005
イタリア	6.6	2005
スウェーデン	6.0	2005
オーストラリア	5.1	2005
USA	4.7	2005
カナダ	4.6	2005

(日本以外の国のデータは WHO レポート 2007 による)

2・新登録結核患者数及び罹患率の年次推移

	全 結 核			
	実数/前年比		罹患率(人口 10 万比) /前年比	
1996 年	42,472	606	33.7	△0.6
1997	42,715	243	33.9	0.2
1998	44,016	1,301	34.8	0.9
1999	43,818	2,785	34.6	2.2
2000	39,384	△4,434	31.0	△3.6
2001	35,489	△3,895	27.9	△3.1
2002	32,828	△2,661	25.8	△2.1
2003	31,638	△1,190	24.8	△1.0
2004	29,736	△1,902	23.3	△1.5
2005	28,319	△1,417	22.2	△1.1
2006	26,384	△1,935	20.6	△1.6

(1998 年以降は新分類になる)

3・年次別・年齢階級別新登録結核患者数

区分	2002 年	2003 年	2004 年	2005 年	2006 年
総数	32,828(100.0)	31,638(100.0)	29,736(100.0)	28,319(100.0)	26,384(100.0)
9 歳以下	114(0.3)	96(0.3)	81(0.3)	78(0.2)	53(0.2)
10～14	41(0.1)	31(0.1)	36(0.1)	39(0.1)	32(0.1)
15～19	335(1.0)	306(1.0)	302(1.0)	284(1.0)	214(0.8)
20～29	2,883(8.8)	2,798(8.8)	2,528(8.5)	2,303(8.1)	2,069(7.8)
30～39	2,843(8.7)	2,803(8.9)	2,738(9.2)	2,677(9.5)	2,417(9.2)
40～49	2,683(8.2)	2,457(7.8)	2,346(7.9)	2,220(7.8)	2,037(7.7)
50～59	4,767(14.5)	4,428(14.0)	3,991(13.4)	3,676(13.0)	3,336(12.6)
60～69	5,540(16.9)	5,133(16.2)	4,656(15.7)	4,328(15.3)	3,837(14.5)
70～79	7,630(23.2)	7,293(23.1)	6,833(23.0)	6,332(22.4)	6,109(23.2)
80 歳以上	5,992(18.3)	6,293(19.9)	6,225(20.9)	6,382(22.5)	6,280(23.8)

4・年次別・年齢階級別結核罹患率

(人口 10 万対)

年齢層	2002 年	2003 年	2004 年	2005 年	2006 年	5 年平均 減少率 (%)
総数	25.8	24.8	23.3	22.2	20.6	-5.5
0～4	1.4	1.2	1.1	1.0	0.6	-17.9
5～9	0.6	0.4	0.3	0.4	0.3	-12.5
10～14	0.7	0.5	0.6	0.6	0.5	-6.3
15～19	4.7	4.4	4.5	4.4	3.3	-7.8
20～29	16.5	16.5	15.3	15.4	13.5	-4.7
30～39	16.0	15.4	14.8	14.9	12.8	-5.3
40～49	16.8	15.6	14.9	14.0	13.0	-6.2
50～59	24.7	23.1	21.1	18.9	17.3	-8.5
60～69	35.8	32.7	29.1	26.2	24.3	-9.2
70～79	70.1	64.8	59.1	50.9	50.0	-8.0
80 歳以上	111.6	111.4	104.3	96.0	93.0	-4.4

5・発病から登録までの期間が3カ月以上の割合

(30～59歳有症状菌喀痰塗抹陽性肺結核患者)

年	初病～登録までの期間が3カ月以上の割合(%)
1998	31.1
1999	30.5
2000	29.9
2001	28.4
2002	30.3
2003	29.3
2004	28.2
2005	28.7
2006	29.5

6・結核登録者数および有病率の年次推移

年	総数/前年比		活動性全結核			
			患者数/前年比		有病率(人口10万対)/前年比	
1994	181,470	△10,114	70,781	△5,894	56.6	△4.9
1995	168,581	△12,889	65,167	△5,617	51.9	△4.7
1996	132,958	△35,623	59,760	△5,407	47.5	△4.4
1997	121,762	△11,196	55,409	△4,351	43.9	△3.6
1998	107,058		49,205		38.9	
1999	104,813	△2,245	48,888	△317	38.6	△0.3
2000	99,481	△5,332	41,971	△6,917	33.1	△5.5
2001	91,395	△8,086	36,288	△5,683	28.5	△4.6
2002	82,974	△8,421	32,396	△3,892	25.4	△3.1
2003	77,211	△5,763	29,717	△2,679	23.3	△2.1
2004	72,079	△5,132	26,945	△2,772	21.1	△2.2
2005	68,508	△3,571	23,969	△2,976	18.8	△2.3
2006	65,695	△2,813	21,976	△1,993	17.2	△1.6

(1998年以降は新分類になる)